

自宅の庭にオオキンケイギクは咲いていませんか？

オオキンケイギクは、5～9月ごろに鮮やかな黄色の花を咲かせる特定外来種です。繁殖力が非常に強く、在来植物へ影響があることから、法律により、栽培や保管、運搬が禁止されています。庭先などで見掛けた場合は、根から抜き取り、焼却ごみとして出してください。

問 環境政策課(1階) ☎561-2341、FAX561-2479



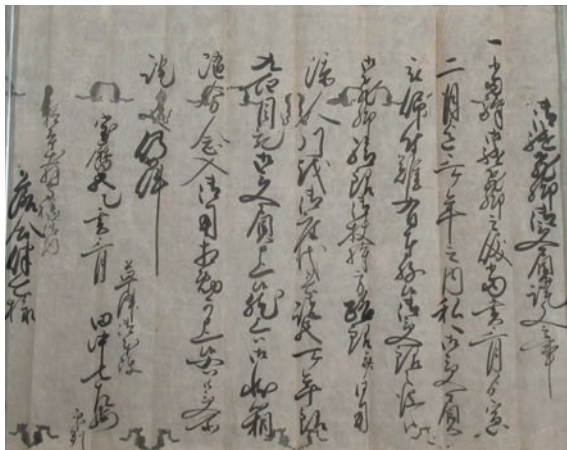
歴史ギャラリー

—大名飛脚と草津宿本陣— 「御継飛脚御受負証文之事」

No.222

一つである出雲国(島根県)松江藩は、参勤交代の際に七左衛門本陣(現・草津宿本陣)を定宿としており、併せて大名飛脚の取次処「雲州役所」を七左衛門本陣に任じていました。「御継飛脚御受負証文之事」は七左衛門本陣が「雲州役所」を請け負ったことを証明するもので、当主の田中七左衛門が松江藩の役人に宛てた文書の控えです。宝暦5(1755)

今回は、草津宿の飛脚に関する資料を紹介します。江戸時代の宿場は旅人を迎えるだけでなく、人や物を次の宿場に送り継ぐ拠点となっていました。東海道などの幕府が支配する宿場は、幕府公用の書簡や荷物を運ぶ役割を任じられていました。これを「継飛脚」といいます。また、各地の大名は、江戸の藩邸や大坂の蔵屋敷、そして領地の間で連絡を取り合うため、独自の飛脚を置きました。これを「大名飛脚」と呼び、その「取次処」を全ての宿場に置かず、約七里ごとに置いたことから「七里飛脚」とも呼ばれています。草津宿では、複数の大名飛脚を請け負っていました。その内の



▲「御継飛脚御受負証文之事」(草津宿本陣蔵)

年3月から宝暦8(1758)年2月の3年間、大名飛脚を請け負うことや、人件費をはじめ、関所や川越の通行料など飛脚にかかる1年分の費用は、本陣側が負担する旨が記されています。ここでは宝暦5年のものを紹介しましたが、同様の文書が数年前にと取り交わされており、同様の資料が複数残されています。今回紹介した資料は、史跡草津宿本陣で開催中の企画展「ザ・ほんじん」で展示されています。本展では、田中七左衛門が本陣職を担って記録された文書資料などを通して、江戸時代の草津宿本陣を紹介しています。ぜひお越しください。

問 草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) 「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)



市の花
アオバナ



市の木
キンモクセイ

市公式ソーシャルメディア



草津市メール
配信サービス

市の情報をメールで
配信するサービス



くさつチャンネル

動画や、
びわ湖放送
(BBC)の
草津スケツ
チも!



3月31日現在
(対前月比)

- 人口 141,490(+226)
- 世帯数 66,134世帯(+363)
- 男 70,815人(+152)
- 女 70,675人(+74)